

No. 4 国語辞典の使い方

- * 国語辞典の使い方は、教科書に掲載されている QR コードにより動画で学ぶことも可能であるが、実際に児童に印刷体の国語辞典を使用させよう。
- * 国語辞典が使えなければ、同様に見出し語が五十音順で並んでいる百科事典も使えない。インターネットの辞典では五十音順に関係なくキーワードを入力すればよいので大変便利だが、ネット経験だけでは辞典の構成・構造の全体像を把握することができない。全体像が把握できてこそ、思考力は高まっていくのではないだろうか。
- * 教科書や辞典の出版社によって「国語辞書」の語が使われている場合もある。

1. 知識として伝えたいこと

- 本には、読むための本と調べるための本がある。読むための本は、ストーリーがあって、最初から読んでいく。調べるための本は、必要な箇所(部分)だけを読む。
- これまでに使ってきた図鑑は、事柄を絵や写真で説明してあった。国語辞典は、図もあるが、主に言葉で説明してある。例えば「カエル」など、実際に図鑑と辞典でどのように説明してあるかを比較してみる。

2. 指導のポイント(小学校3年生の国語教科書を参照のこと)

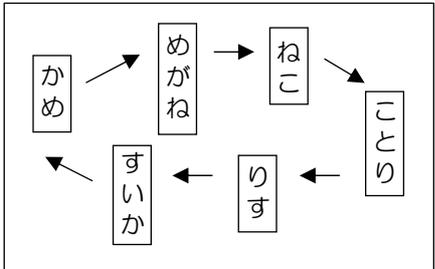
- 国語辞典とは、言葉を集めて五十音順で並べて、それぞれの意味や使い方などを言葉で説明したもの。言葉の意味や漢字がわからない時に使う。
- 「見出し語」「はしら」「つめ」の意味を押さえる。
- 「見出し語」は五十音順で並んでいる
- いろいろな語の例を挙げて、その順番を考えさせる。
 - ・五十音順の確認「どちらが先にでてくるか？」
 - 例) 「あめ」と「かさ」, 「くち」と「みみ」, 「やま」と「みずうみ」
 - ・清音(は), 濁音(ば), 半濁音(ぱ)の順に並んでいる。
 - 例) こうとう(口頭), こうどう(行動), ごうとう(強盗), ごうどう(合同)
 - ・促音(っ)や拗音(ゃゅょ)は、「つ, や, ゆ, よ」の後に並んでいる。
 - 例) 「びょういん(美容院)」と「びょういん(病院)」, 「しょう(使用)」と「しょう(省)」
 - ・長音(ー)は、読みに合わせた「かな」に置き換えて並べられている。
 - 例) 「プール」⇒「プウル」, 「コーヒー」⇒「コオヒイ」)
- 「凡例」(はんれい)には、国語辞典の使い方が説明されている。

* 書画カメラやパワーポイントなどを用いて辞書のページを拡大して掲示し説明するとよい。

* 五十音表の拡大したものを黒板等に掲示するとわかりやすい。

3. 指導の工夫

- 使い方をひとつと説明したら、辞典を使った活動を工夫してみよう。
- ・教科書のなかの言葉を、一人で、あるいはペアで調べてみる。
 - ・国語辞典は出版社によって説明の方法等が異なる。児童にいろいろな国語辞典を使わせ、意味調べをさせて、辞典の違いを体験させる。
 - ・「しりとり遊び」で語を探すのに国語辞典を使うこともできる。(右図は「かめ」から始まる「まわるしりとり」の例。配布する用紙にはすべて空欄にしておく)
 - ・辞典を使って語を引くゲームを行うこともできる。この場合は、クラス人数分の同じ辞典を用意する必要がある。10分間で各人に問題の言葉をひかせ、その言葉がのっているページ数と、どの段にあるか(上・中・下段)を回答用紙に記入させる。まちがったらケンゴムで消さずに線で消して書き直す。終わったら答え合わせをする。『図書館へ行こう! 図書館クイズII』(五十嵐絹子編著 国土社 2011)に問題例があり参考になる。



まわるしりとり(例)